

宮田典幸さんを偲んで

(五十七歳)

宮田さんの経歴は、華々しいものでした。愛知高等学校時代は高校野球で甲子園に出場した経験もあり、亜細亜大学に進学して野球で活躍し、スポーツメーカに就職しました。しかし、転機は突然訪れました。三代前半、がんが見つかり、大手術を受けて一命をとりとめたのです。その後、愛知県に戻り日本福祉大学中央福祉専門学校で福祉を学び直し、老人・児童の福祉経験を重ね、平成十三年十月から中日青葉学園で、即戦力として働き始めました。野球の経験を生かし、部活動のソフトボール指導では特に秀でていました。実直な人柄で誰からも慕われ、平成十五年のわかば館スタート後も縁

の下力持ち的存在で、なくてはならない人でした。同僚の兼山俊子さんと結婚し、幸せな家庭を築きました。しかし、平成二十九年九月にがんが再発し、またまた大手術を乗り越えて一度は再起を果たしましたが、令和元年五月十三日に帰らぬ人となりました。五十七歳でした。通夜や葬儀には卒園生や退職職員も多数弔問に訪れ、人望の厚



青葉分校 地鎮祭

日進中学校、日進北小学校の青葉分校の特別教室が入る学習棟(第二学習棟)の増築工事の地鎮祭が十一月三十日に現地



青葉通信

第24号

発行 社会福祉法人 中日新聞社会事業団 中日青葉学園 電話 0561(72)0134

わかば館の居室の多くを個室に 子どもの生活にゆとり



児童心理治療施設わかば館は平成十五年に開設されて以来、十七年になります。あさぎ(女子ホーム)ともえぎ(男子ホーム)は定員三十五人で両ホームとも一人部屋が二室、二人部屋が四室、四人部屋が二室の八LDK+aでスタートしました。他兄との関わりが難しい子が多いため、平成二十六年に一回目のリフォームを実施しました。ケア単位を小さくして四人部屋をそれぞれ半分ずつ区切り、二人部屋を四室とし、一人部屋が一室、二人部屋が八

室の一〇LDK+aとしました。次にリフォームを考えたのは、平成三十年度です。国は、児童養護施設の小規模化の推進を求めている。あおば館は順次進めています。一方、児童心理治療施設に対しては、施設の小規模化を具体的に明示していないため、わかば館を小規模化して定員を減らすことはできません。リフォームの時期を迎え、施設を小規模化し定員を減らすことはできないまでも、個室を増やしたいと考え、あさぎ・も

多くの方々から、寄付、招待をいただきました。令和元年に支援いただいた方のお名前を紹介させていただきます。匿名での善意もいただきました。ありがとうございました。

(敬称略、順不動)

島中智之、東郷町の伊達直人、河井道子、寿正、柴田幸子、マツオケント、中部善意銀行、日本ゼネラルフード、カープスジャパン、日進市更生保護女性会、神野徹、NOYES、ダスカジャパン、クアウテモツ、JA伊勢、神野徹、愛知トヨタ自動車、慈眼寺、都築、東海アイスクリーム協会、洞泉寺、田中尚己、愛知県信用農協連合会、親子文化を育てる会(もの木保育園)、ユーコー(諭吉のからあげ)、大島勇美、親切会中部支部、松野恵、廣田荘之輔、近藤産興、中日新聞東刈谷専売店(角岡新聞店)、中日新聞岩崎専売店、コカ・コーラボトリスジャパン、サイトウヒロミ、中日新聞各販売店(中日新聞スプリングキャンペーン協賛)、野々山商事、名古屋トヨペット、電通中部支社顧客プロモーションデザイン部、ポッカサッポロフード&ビバレッジ、慶昌院、オークランド観光開発、匿名、コストコ、カルビー、朝日住宅、十六銀行、丸大産業、全国シヤメリー協同組合、村松泰平税理士事務所、文屋(木下豊)、澤出勝則、廣田智美、名糖産業、愛知中央ライオンズ、チュチュアンナ、Touch Me(梶川直樹)、中川区倫理法人会、中原哲郎、冬花火実行委員会、ミタカ運輸、安田慎市、こどもハートクラブ、大森石油、京都銀行、山田成和、さんわコーポレーション、今枝久美子、春田建設、吉兼章仁、ベタニヤ幼稚園母の会、白山宮、愛知韓国青年商会、中日新聞印刷、中日総合サービス、中日新聞保険サービス、ナゴヤドーム、日進電気、澁谷由美子、中日ネクスト、丸新舎、中日サービス、大日本印刷、兼松エレクトロニクス、中日制作センター、ヴァリダックス、中日高速オフセット印刷、中日オフセット印刷、中部日本ビルディング、産通、共生印刷、中日エージェンシー、中日アド企画、中日ショッパー、中日企業、中日興業、西尾中日サービスセンター、中日折込



えぎそれぞれ個室(一人部屋)を大幅に増やすリフォームに取り組みしました。まず、あさぎ(女子ホーム)のリフォームを平成三十一年一月～三月で行い、一人部屋を二室から十室に増やしました。結果、一人部屋は十室、二人部屋は四室の一四LDK+aとなり、定員を十八人としました。

次にもえぎ(男子ホーム)のリフォームを平成三十一年三月～四月に行い、一人部屋を二室から九室に増やしました。全体では、一人部屋が九室、二人部屋が四室の一三LDK+aで定員十七人となりました。総数は三十五人で変わりありません。リフォーム中は、あさぎ・もえぎの子どもはそれぞれ

れぞれ宿泊(退所支援)施設「のぞみ」と「心理治療棟」の心理治療室・音楽療法室・家族療法室に分かれて生活しました。

生活の変化に伴い、トラブルの頻発を心配しましたが、思ったよりも環境に適応し、「のぞみ」と「心理治療棟」のセパレート生活を楽しんでいました。「のぞみ」での生活は、これから求められる形態(分園型の地域小規模児童心理治療施設)が体験でき、大きな収穫となったと思います。その代り職員は、三人の宿直体制を敷き、手厚くケアできる万全な体制で臨んだので大変だったと思います。あさぎは三月二日から、もえぎは四月二十日

平成30年度 予算 わかば館 (単位:円)

収入の部	支出の部
1. 措置費 192,649,000	1. 人件費 156,875,000
2. 補助金 11,503,000	2. 事務費 18,168,000
3. 寄附金 2,100,000	3. 事業費 32,476,000
4. 雑収入 1,200,000	4. 建物取得支出 35,000,000
5. 利息配当 1,000	5. 器具備品取得支出 0
6. 繰入金 37,000,000	6. 構築物取得支出 0
7. 積立資産取崩 0	7. リース債務返済額 652,000
	8. 青葉整備積立支出 0
	9. 利用者等外給食費支出 1,282,000
合計 244,453,000	合計 244,453,000

平成30年度 予算 あおば館 (単位:円)

収入の部	支出の部
1. 措置費 212,835,000	1. 人件費 159,075,000
2. 補助金 10,717,000	2. 事務費 20,296,000
3. 寄附金 2,700,000	3. 事業費 49,980,000
4. 雑収入 2,500,000	4. 建物取得支出 0
5. 利息配当 1,000	5. 器具備品取得支出 0
6. 繰入金 3,000,000	6. 構築物取得支出 0
7. 子育て支援事業 275,000	7. リース債務返済額 843,000
8. 積立資産取崩 0	8. 利用者等外給食費支出 1,834,000
合計 232,028,000	合計 232,028,000

平成30年度 決算 わかば館 (単位:円)

収入の部	支出の部
1. 措置費 205,373,326	1. 人件費 155,046,562
2. 補助金 13,008,910	2. 事務費 18,095,544
3. 寄附金 3,573,100	3. 事業費 31,554,588
4. 雑収入 1,205,784	4. 固定資産取得 59,042,949
5. 利息配当 621	5. 利用者等外給食費 1,908,410
6. 繰入金 66,000,000	6. リース債務返済額 650,760
	7. 積立資産支出 36,000,000
合計 289,161,741	合計 302,298,813

平成30年度 決算 あおば館 (単位:円)

収入の部	支出の部
1. 措置費 229,613,055	1. 人件費 162,966,694
2. 補助金 9,235,410	2. 事務費 19,446,547
3. 寄附金 6,077,800	3. 事業費 48,091,879
4. 雑収入 2,131,748	4. 固定資産取得 1,859,720
5. 利息配当 740	5. リース債務支出 843,528
6. 繰入金 10,560,000	6. 積立資産支出 48,000,000
	7. 利用者等外給食費支出 1,813,410
合計 257,618,753	合計 283,021,778

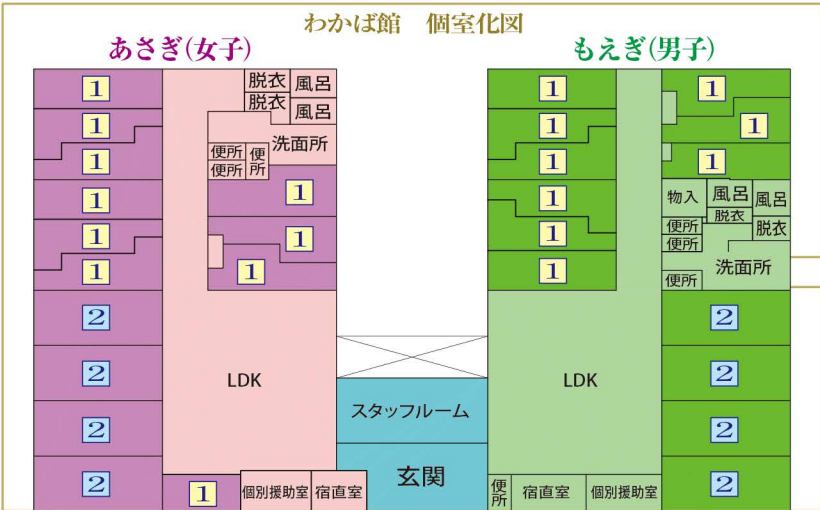
わかば館の居室の多くが個室化され、子どもたちは集団生活の中でトラブルがあった場合でも、居室で一人になって心を落ち着かせることができるようになりました。部活動で特に印象深かったのは、フットサル大会中高生の部でのあおば館

(S・H)

からリフォームしてきれいになったそれぞれのホームで新たな生活をスタートさせています。個室が増えたことでトラブルが未然に防げるようになった事は、生活にゆとりを感じられるようになりました。

それともう一つ大きな変化は、お風呂がそれぞれ二室になったことです。これまで一つのお風呂で十五人以上の子どもがあくせく順番に入っていました。お風呂が二つになった事で時間の余裕が生まれました。

将来的には、わかば館の完全個室化と分園型の地域小規模施設の開設に向けて前向きに考えていきたいと思っています。



中日青葉学園 理念 「和」

人の輪を広げ、豊かな心を育て、未来に向けて子どもと共に歩み、地域福祉の向上に貢献します。

方針

- 1 家庭的なホーム生活を通じ、子どもたちの情緒の安定を図り、安全で安心できる生活を提供します。
- 2 スポーツ・文化活動を通じ、仲間との連帯感、心身の健康、豊かな心、忍耐力を育みます。
- 3 児童の権利擁護に努め、子どもたちの言葉に耳を傾け、社会的な責任と自分たちの権利、義務について共に考え、自立を支援します。
- 4 地域との交流を深め、地域の子育て支援・ボランティア支援の役割を担い、地域に開かれた参加型の施設を目指します。
- 5 外部の専門機関との連携を深め、子どもたちにとって、より良い支援を行います。
- 6 「子どもの最善の利益」を念頭に、職員の教育・研修を行い、自己研鑽に努めます。

